

H27年度 第2回物部川地域アクションプランフォローアップ会議の概要

日時：2月8日（月）14:00～16:40
場所：香美農林合同庁舎1階大会議室

1 議事等

- (1) 産業振興計画の戦略等（案）について
 - ・ 第3期産業振興計画の戦略等（案）について説明

- (2) 第3期産業振興計画における物部川地域アクションプラン（案）について
 - 1) H28年度物部川地域アクションプランの追加・削除・拡充等（予定項目）について
 - ・ 追加2件、削除2件、拡充等2件について説明
 - ・ 案について承認された
 - 2) H28年度物部川地域アクションプラン（案）について
 - ・ 全27項目について説明
 - ・ 案について了承された

- (3) 産業成長戦略について
 - 1) 移住促進分野のバージョンアップの方向性について
 - 2) 歴史を中心とした博覧会の開催について

2 意見交換

＜産業振興計画の戦略等（案）について＞

- ・ 特になし

＜第3期産業振興計画における物部川地域アクションプラン（案）について＞

○H28年度物部川地域アクションプランの追加・削除・拡充等（予定項目）について

・（削除：No.12 木質バイオマスの活用に向けての取組）ペレットは価格的に厳しいが、チップなら採算が合うのではないかと。熱量換算で設計上50円を割っていると思われる。今回、削除となったが、これまで県ではペレットの利用を進めてきており、ペレットを使っている農家もいる。次世代型ハウスでの利用など、これからどう考えているか。

→国の補助制度を活用した木質バイオマスボイラーの導入は、現在、県内で212台設置されている。H27年度から国の補助率が100%から4分の3となり、自己負担が生じたため、管内でもH27年度は農家からの要望がなく、H28年度以降についても要望がない。農家の需要はヒートポンプに移行しており、現在、重油も安くなっているため、今後の需要も見込めない。また、供給基地づくりの取り組みについても、既に宿毛市で建設されていることから厳しい。チップの要望があれば成長戦略での取り組みとして対応していく。

○H28年度物部川地域アクションプラン（案）について

・ 次世代ハウス等農業の取り組みについて、最近、若者や意欲のある方から次世代型ハウスをやりたいという話を聞く。大規模な面積になると個人では難しいため、法人化等が必要ではないか。具体的な現状はどうなっているか。

→管内では香南市1、南国市2（うち事業申請中が1）の3カ所で、県内6カ所のうち3カ所が管内にある。建設中の香南市はニラが40a、南国市はメロンが42aで、事業申請中のハウスはパブリカ・ピーマンが約70aである。次世代型の要件は、軒高が2.5m以上、耐風速が35m以上で、ハウス内に環境制御装置を備えていることである。現在は事業を進めるにあたり法人化を義務付けており、県内の事業者はすべて法人である。来年度以降も事業は継続する。事業費が大きいことから、経営基盤の強化が重要であり、法人化して企業的経営感覚を持って進めていくべきであると考え。

・次世代型ハウスは面積が広いので、今後はチップと併用した形で次世代型ハウスに熱供給をしてはどうか。

・(No.23 広域観光の取組の推進)H27年度に開催した3市交流イベント「物部川流域フェスタ」には多くの来客があった。3市から出店した約18店舗は完売で、今後も各市の商工会・観光協会・行政が一体となって取り組んでいく。補助制度もお願いしたい。

・(No.18 香南市の地場産品販売促進)「山北みかん大福」は南国市の「スイーツ」とのコラボ商品で、山北みかんを皮ごとゼリー状にして大福にくるんだもの。高知駅でも人気で、サニーマート、フジグラン、野市駅売店などで販売しており、常温で20日間日持ちするので、県外へのお土産として活用をお願いしたい。

・(No.20 香美市における特産品づくりの推進)山田高校が「山田まん」(饅頭)という特産品づくりに頑張っており取り組んでいるので、事業主体に山田高校を入れてはどうか。チャレンジショップ・空き店舗対策にもつながるかもしれない。

また、地場産業の振興に関連し、高知新港に寄港する大型客船への特産品の船内持ち込みを可能にするにはどうしたらよいかが課題である。例えば次の寄港先まで配送することや真空パック加工等により、手荷物に入れて持ち帰ってもらうことも研究したい。

→山田高校の取り組みについては、我々も若い発想を取り入れていきたいので、ぜひ一緒に取り組んでいけたらと考える。

・物部川流域の国営農地整備について、アクションプランの目標との関係及び、国営農地の整備と農業の収量増などとの関係について教えていただきたい。

→5~10年後には生産性の高い農地ができるので、次世代型ハウスの整備などにより、農業産出額の増加に寄与するものと考え。

・(No.9 農園レストランによる地域食材の消費拡大)南国市のトリトンが好評であると聞くと、状況を教えていただきたい。

→地域本部で把握している12月末の実績は、10/19オープンから約2カ月で、売上が6千万円超、客数も5万人超。オープン当初ということも鑑みても、飲食業としては非常に高い水準を保っている。このまま高い状態で推移してくれればありがたいが、オープンして間がなく、まだ見えないところでもあり、H31年度の目標値については、産振補助金の事業計画で掲げた目標値としている。

<産業成長戦略について>

○歴史を中心とした博覧会の開催について

・歴史博覧会の実施にあたり、空き家を宿泊施設として使えないか。市街化調整区域では、貸したくても宿泊施設としては貸せない。田舎で高いホテルに泊まることに抵抗がある方々に、空き家を活用した宿泊施設を提供できたらと思う。規制緩和を検討できないか。

→南国市・香美市でも、都市計画法上の市街化調整区域の縛りのために、やりたいことができないことが実際に多くある。規制緩和の部分では、旅館業法の簡易宿泊の面積要件などが緩和される動きがあり、これまで農家民宿などに限られていた枠が広がる見込みである。縛りがない区域では宿泊業の可能性は広がるものと考えているが、市街化調整区域の縛りがある区域については、現段階では厳しいだろう。

○移住促進分野のバージョンアップの方向性について

・移住対策について、I・U ターン同士での情報交換や職探しなど、現状が報告でき、また、友達を呼ぶ交流会といった取り組みが県で行われているか。

→移住者同士での情報交換会は、民間レベルで実施している。県では、移住コンシェルジュが中心となって年数回、交流会を行っているが、いずれも少人数でアットホームな会となっており、SNS などを使って情報発信をしてもらうよう仕掛けている。人が人を呼ぶ仕組みでは、取り組みを楽しく賑やかに進めていけるよう、移住者のネットワークを使えるようにしていきたい。

・その交流会は、県外から帰って来たいという場合に、様々な県内の状況がわかる場となっているか。県のコンシェルジュがいることはわかるが、実際に移住された方や同じ世代の方と交流したい時に、それができるイメージなのか。

→先輩移住者との交流は、年間約 30 回の都市圏での相談会・フェアに先輩移住者も参加していただき、移住の流れや、良かった点や困っていることなどを話してもらい、でもいいところだよ、という形で誘ってもらい取り組みをしている。先輩移住者として出ただけの方は魅力的で、普段から地域に友達などを呼んでいることが多い。今後もそういった方とコラボしながら進めていきたい。

・地域別移住実績において、物部川地域が少なく見える。物部川地域は恵まれていると思うが、他地域と比べて何が足りなくてこうなっているのか。

→エリアの広さもあるだろうが決して少ない数字ではない。例えば嶺北地域は、人気のあるエリアで、取り組みもしっかりされている。物部川地域では香美市の「いなかみ」が熱心に取り組まれており、おそらく定住率で見れば非常に高く、まだまだ伸びていくと予想される。

■お問い合わせ先

高知県産業振興推進部計画推進課（地域産業担当）

電話 088-823-9334

FAX 088-823-9255

メール 120801@ken.pref.kochi.lg.jp